

日本会議 愛知県本部

〒464-0836

愛知県名古屋市中種区菊坂町3-5-302

E-mail: tokai-seikyo@mtc.biglobe.ne.jp

TEL : 052-763-4678

FAX : 052-763-4588



あいち通信 第百十三号

年頭御挨拶

謹賀新年

旧年中は、格別のご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

改憲勢力が三分の二を確保して、四年目を迎えました。私どもはこれを千載一遇の好機と捉え、美しい日本の憲法をつくる愛知県民の会を設立し、国会議員、地方議員、民間団体が三位一体となった国民運動を推進してまいりました。

そして、平成三十年中の国会発議を期待しておりましたが、憲法審査会における野党のサボタージュにより、またもや先送りの事態となっておりまして、

しかしながら、決して諦観することなく、引き続き国民投票実現と勝利に向かって、更に邁進してまいります所存です。

また、天皇陛下におかれましては、御即位より三十年の佳節をお迎えになります。常に国民の側に寄り添うと仰せになり、数多の災害地に慰問なされ、優しく国民をお励ましあそばされました。各地の復興が、天皇陛下の大御心に拠ることは、多くの国民の声からも拝することが出来ます。私どもは平成の御代に生かされた三十年に深く思いを致し、天皇陛下のご聖徳に心からなる感謝の誠を捧げたいと存じます。

そして五月一日には、皇太子殿下の御即位となり新たな御代が始まります。

六月二日には、第七十回全国植樹祭が愛知県森林公園(尾張旭市)において開催され、新たに御即位なされた天皇皇后両陛下が御臨席あそばされます。御即位後、初の行幸啓となり、真心を込めた奉送迎をさせていただきたく存じます。

続いて十一月には即位礼、大嘗祭などの重要な国家儀式が執り行われます。私どもは、愛知県民総参加の奉祝行事を開催いたすべく、鋭意諸準備に取り組んでまいります所存です。

引き続きのご支援、ご協力を謹んでお願い申し上げます。

平成三十一年一月一日

日本会議愛知県本部

会長 重富 亮

美しい日本の憲法をつくる全国大会開催さる

□去る12月5日、東京都内において「待ったなし！憲法改正の国会論議」のタイトルを掲げた全国大会が開催された。会場には全国各地より1,100名が駆けつけて、一向に進まない憲法審査会の論議と国会の閉塞状況を突破すべく、壇上の出席議員を激励した。櫻井よしこ共同代表より「もはやお願いするということから、要請するという段階に来ている」と優しい口調ながら、気迫のこもった挨拶があった。



憲法改正を考える議員連盟が勉強会を開催

□去る11月30日、自民党愛知県議団全員の加盟する「憲法改正を考える議員連盟」(直江弘文会長)が百地 章氏(国士舘大学特任教授)を招き、勉強会を開催した。自民党本部は全国の小選挙区において、憲法改正推進本部設置の方針を打ち出しており、愛知県でも全選挙区に推進本部設置と運動加速が期待される。



自衛隊小牧基地見学会開催さる

□去る11月22日、平岩和子氏(日本女性の会愛知副会長)の呼びかけにより小牧基地見学会が開催された。当日は、輸送隊、救難隊の航空機と施設の見学。昼食を隊員食堂でいただいた後は管制塔の見学もあり、日夜、訓練に励んでいる自衛官の方々の努力が偲ばれた。



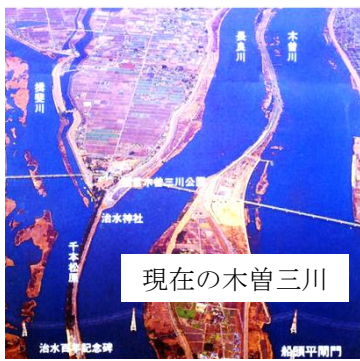
皇太子殿下と木曾三川 服部守孝

去る五月二十一日、皇太子殿下は愛知県愛西市にある「船頭平開門」を御視察なされた。同市は旧海部郡立田村と言ひ、我が故郷である。当日は、地域住民の方々と共に真心を込めた奉送迎をさせていただき、感激の極みであった。皇太子殿下は、水上交通の研究がご専門でいらっしゃるが、この度のご視察先に船頭平開門を選ばれたことは、皇太子殿下のご意思によるものと恐れながら拝される。「開門」とは、高低差のある川の水位を調整して船舶を往来させる水門のことであり、パナマ運河などが最も有名である。皇太子殿下は、現地に立たれ説明員から二十分程の御進講を受けられた。そして、予定外ながらも木曾川から長良川への船の通過を、最後まで御覧になりたいと仰せられたとの事。殿下は事前にお調べの上、臨まれたよう、説明員は、実に楽しそうに過ごされた。殿下は聞き上手のお方だと思つた。などの感想を述べている。

後日、私はその説明員に取材を申し入れ、面談をした。どのようなご下問があり、どのようにお答えをされたのかを伺つたが、侍従より、今日のことは墓場まで持つて行つて下さいと言ひ渡されたので、お話できないとの事。昔気質の律儀な方で、却つて好感を抱いたほどであった。

この船頭平開門は、いまから百十六年前の明治三十五年、木曾三川改修工事によつて建設されたものであるが、政府の招聘によつて来日したオランダ人技師ヨハニス・デレーケの指導による。木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)の下流地帯にある濃尾平野は、愛知、岐阜、三重の三県にまたがる往古からの水郷地帯であり、米どころでもある。しかし、この三川

の氾濫に人々は苦しめられてきた。政府は、木曾三川の分流工事を着手。明治十年から四十五年までの三十五年間、工事費九百七十五万円をかけて、一大国家プロジェクトを成し遂げた。以来、今日に至るまでこの地域における水害はなくなり、人々は穏やかな暮らしを営んでいる。この明治大改修は、オランダ人技師ヨハニス・デレーケの功績によるものである。郷土史には必ず登場する偉人である。



更に百二十年遡つて、宝暦三年(1754)。徳川幕府の命を受けた薩摩義士の宝暦治水も、後世に語り継ぐべき叙事詩である。この時代は大小の河川が合流分流し合つて、平野とも呼べない中洲(輪中)が寄り合つていれる地形であった。水郷と言われる所以である。しかし先述のように、一旦河川が氾濫すれば、たちまち水害地帯に変貌するのである。薩摩藩家老平田朝負率いる藩士五百八十余人は遠路はるばると赴き、難工事に当たつた。工期は僅か一年余りであったが、多くの殉難者を出し(岐阜県海津市には、平田朝負ら八十五名の義士を祀る治水神社がある)莫大な工費を負担した。(幕府一万六千三百四十兩、薩摩藩七万六千九百六十兩に加え工費以外に三

十七万兩)工事完了後、平田家老は諸々の責任を負い切腹して果てた。辞世 住みなれし里も今更名残にて 立ちぞわづらふ美濃の大牧



私は幼少の頃、村の古老らが、敬意を込めて「薩摩さま」と話していたことを思い出す。私事にて恐縮だが、我が家の始祖服部告衛門勝昭は延享四年(1747)没である。その後二年(1749)に没した。その二代目告衛門は、宝暦時代である。古書には、人夫を現地雇用了とされておられ、わが先祖も薩摩さまの下で働いたのかも知れない。私は「薩摩さま」と声に出すと胸の奥が熱くなる。二七〇年の血統を感じるのだ。薩摩義士の宝暦治水から、デレーケの明治大改修に脈々と流れる「水」との闘いの歴史と精神。皇太子殿下は、そのことも全て御承知で行啓あそばされたものと拝する。(本稿は祖国と青年十二月号への寄稿文を加筆訂正したものである)

事務局日誌(十一月) 服部守孝

一日(木)憲法おしやべりカフェで西春に参加。国民投票の具体的イメージについてお話しさせていただきました。四日(日)第百十回愛知県護国神社清掃奉仕会に参加。終了後は、月参りにも参列させていただきました。

五日(月)第二回小選挙区代表者会議を開催。国会議員・地方議員・民間団体より五十名の出席があり、来るべき国民投票の諸準備について協議があった。十三日(火)去る五月二十一日に皇太子殿下が船頭平開門をご視察なされたが、その施設全般についてご進講を務めた説明員の方を訪ねた。どのようなご下問があり、どのようにお答えされたのかをお聞きしたが、侍従より今日のことは墓場まで持つて行くように、と言われたとの由。お話を聞けなかった。昔気質の律儀な方で、却つて好感を抱いた。十八日(日)南部文宏県議後援会へ。百名を超える支援者の参加があった。明年、二期目を目指し奮闘を誓う会となった。二十二日(木)平岩和子さん・日本女性副会長の呼びかけで、自衛隊小牧基地の見学会があった。輸送隊、救難隊、航空管制などの施設や装備を見せていただく。隊員食堂で昼食も美味しくいただいた。二十三日(金)岐阜市で開催された国創りフォーラムに参加。講師は桜林美佐さん。防衛費の内訳で44%が人件費と糧食費に占められている。その他にも基地対策費などがあり、最も重要な

装備品費の不足が常態化しているとお話は、昨日の小牧基地見学の際に、古い航空機を大切に手入れして現役使用している事を目の当たりにしていたので、実感をもって聴講した。【自衛隊の方々を想ひて詠める】 国まもるために捧ぐと宣ひ誓ひ 日ごと勤しむ人のたふとし 自衛隊幾年月を耐へしものび 二十七日(火)東京。天皇陛下御即位三十年奉祝委員会設立総会に参加。各界代表千名が一堂に会し、役員ならびに事業計画の発表があった。終了後、在京の友人と再会。近況報告などして楽しく過ごす。赤坂のホテル泊。二十八日(水)二年ぶりにサンマリノ共和国大使館を訪問。マンリオ・カデロ大使にご挨拶申し上げる。大使は一五四か国の外交官を代表する、駐日外交団長をお務めでありご多忙の方であるが、温かく迎えて下さつた。御用達のイタリアンレストランで昼食会を開いていただき、帰りは外交官ナンバーのベンツで品川駅まで送つて下さつた。私のような野人を過分におもてなしいただき、感泣してお別れをした。明年の建国記念日のご出講も快諾いただけた。

愛知県護国神社清掃奉仕予定

- 1月6日(日)午前8時開始。※清掃奉仕終了後、9時より「月参り」に参列いただけます。
■引き続き2月3日(日)午前8時開始とします。
■軍手を必ずご持参ください。また、小雨なら社殿の木杵拭きをしますので雑巾をご持参下さい。大雨は中止になりますが疑わしい天気の場合には、現場責任者の服部宛、電話(070-6583-4588)を下さい。



(12月2日 奉仕後に撮影)

●「日本の息吹」を引続きご購入くださいますようお願いいたします。